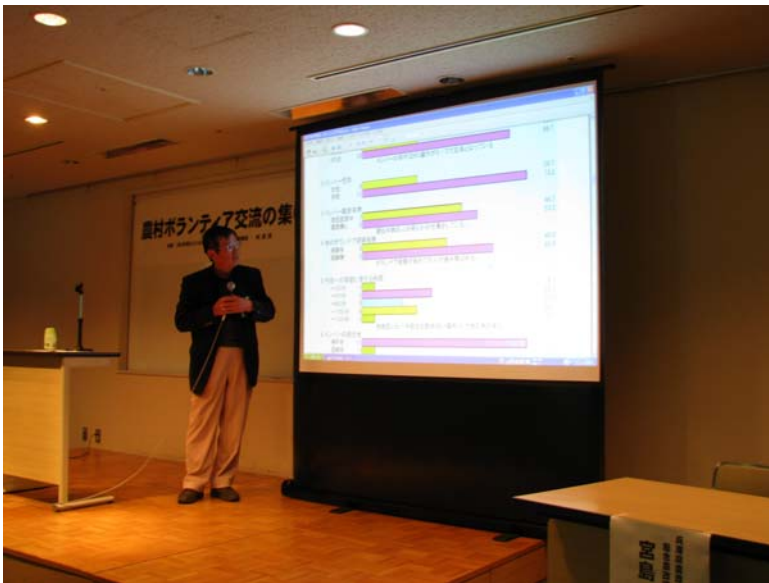


# ふるさと交流だより

## 農村ボランティア交流の集い

農村ボラ  
ンティア  
会員会報

12月20日(日)、クリスマスのイルミネーションがあちこちで輝いている神戸ハーバランドにある神戸市産業振興センターで、農村ボランティア交流の集いを開催しました。師走の慌ただしい時期の開催でしたが、事例発表をして頂いた3名のボランティアの方からは、農村の現状、ボランティアとしての関わり方、ふるさとむら・事務局への提言など、貴重なご意見を発表頂きました。後半の班別意見交換階では、参加頂いた皆さんから、熱心な取り組みについてのご報告を頂いた他、ふるさとむらへの交通手段の問題や、情報量の不足などについて課題も多いとのご意見も多数ありました。



篠山市今田町本荘地区で活動中の「I LOVE KONDA」代表の石田悦朗さんから、これまでの活動状況についてお話いただきました。ふるさとむらのニーズと、ボランティアが無理なく活動できる接点を、会員へのアンケートなどで取るなどしてしっかりと把握し、継続した活動に繋げてこられました。連絡網や会員規約を作成し、登録会員間の情報の共有にも配慮しておられました。この日、持参頂き、参加者の皆さんで供覧させて頂いた写真集や日報は、本当に丁寧に細かく記録されており、I LOVE KONDAの活動記録集として、非常に価値あるものだと拝見しました。今年はボランティア活動の拠点となるログハウスも完成し、これからも無理なく楽しくをモットーに、活動を展開していかれるとのお話でした。

姫路市にお住まいの西村義則さんは、平成16年の豊岡地域での水害の災害ボランティアをきっかけに、ボランティア活動を始められたとのこと。食糧自給率の低い日本で、農業が衰退していくことに危機感を覚え、インターネットで兵庫楽農生活センターが農村ボランティアを募集していることを知り、登録頂いたそうです。現在はお実家のある豊岡市八代地区と、市川町河内地区に登録し、活動をしておられます。これまでの活動を通して、ボランティアに提供される情報のシステムの問題や量の不足、若年層の参加がまだまだ少ない現状等、課題が多いことも発表されました。西村さんご自身が、登録地区以外で活動された事例が地元新聞に掲載されたことから、メディアの活用の重要性も含め、最後にボランティア・農家・県へ、それぞれに向けて提言を頂きました。





最後に今年秋、神戸市垂水区から南あわじ市倭文地区に移住された岩野廣治郎さんにお話しいただきました。仕事を退職される前から、「引退後はどこかに移住して農業を始めよう」と計画されていたそうです。岩野さんの農業に対する思い入れは、幼い頃に十分な食糧がなかった戦後まもない時代を経験されたことから生まれたもので、日本の農業の将来に強い危機感を持っていると話されました。倭文地区には農村ボランティアに登録して研修会で初めて訪れた際、ここに移住しよう決められたそうです。ボランティアの経験年数はまだ浅いのですが、他地区の活動研修会にも参加され、ボランティアを受け入れるふるさとむらにも温度差があることを感じられたそうです。また兵庫楽農生活センターが実施する「駅前講座」に参加され、そこから得た知識がとても役だっていると、参加者の皆さんにも受講を勧めておられました。移られて2ヶ月余り、お家の修繕も落ち着き、今後倭文地区に移住される方がいらっしゃれば、歓迎すると締めくくられました。

## 班別意見交換会

3名の方の事例発表後、班に分かれて自由に意見交換をして頂きました。既に登録地区で活発な活動しておられる方、まだ登録地区が決まらない方、農村ボランティアに興味があって、この日初めて参加される方など、様々な参加者の皆さんに意見交換をして頂き、班別に内容を発表頂きました。当初の予定時間ではなかなか議論が深まるどころまではいかず、出されたご意見を代表の方に発表して頂くにとどまりましたが、ふるさとむらまでの交通手段、情報提供、リーダーの必要性など、今後の課題がいくつか見えてくる意義深いものとなりました。ご参加頂きました皆様、本当にありがとうございました。



**編集・発行** (社)兵庫みどり公社 兵庫楽農生活センター 楽農交流課 農村ボランティア事務局

所在地 : 〒651-2304 神戸市西区神出町小束野 30-17

電話 : 078-965-2651 FAX : 078-965-2653

e-mail : koryu@forest-hyogo.jp H P : [http://hyogo-rakunou.com/07\\_nouson\\_bora.html](http://hyogo-rakunou.com/07_nouson_bora.html)